

## 令和4年度 第3回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

### 1 日 時

令和5年2月8日（水）14時～16時

### 2 場 所

駿河消防署 4階会議室

### 3 出席者

（委員）櫻井委員、中村委員、紅林委員、前坂委員、美尾委員、望月委員  
稲垣委員、小嶋委員

（駿河区地域包括支援センター）7包括

### 4 事務局

駿河福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係

保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部 地域支え合い推進係

### 5 傍聴者

1人

### 6 地域包括支援センターの事業計画報告及び意見交換

別紙 各地域包括支援センター事業計画書参照

<<大谷久能地域包括支援センター>>

包括：

大谷久能高齢者くらしみまもりたいについて、今年度も民生委員と協力し、各自治会定例会で各組長に、組内の高齢者を少しだけ気にかけて、民生委員や包括支援センターに繋げてほしいと、見守り活動への協力を依頼している。この取組を繰り返していくことで、みまもりたいを風化させることなく活動を維持することができている。今年度はみまもりたい10周年の節目ということもあり、記念事業として、10周年記念誌の発行と大谷久能健康福祉フェアを開催した。行政と圏域内の専門職と地域住民が協働し、みまもりたい、フレイル予防、認知症の理解・普及活動を行い、181人の一般住民の参加があった。大谷久能地区の地域福祉力は民生委員と地区社協が中心となって、とても高い状態を維持していたが、12月に民生委員の一斉改選があり、委員の入れ替えがあった。約20年間大谷久能地区を牽引してきてくださった民生委員の役員の方の退任もあり、地域の顔ぶれや雰囲気も12月から大分変わっている。今が大谷久能地区の福祉力の転換点と考えている。部会委員から質問があった、地域の担い手の維持の模索についてだが、大谷久能地区は今まで特定の人が地域を引っ張ってきたという印象がある。今後は、民生委員や組長から、当たり前のようにみまもりたい活動を引き継いでいく、この“当たり前”を消さないよう、地域と福祉活動を協働し、風化を防ぐことが対応策と考えている。今後、新しくみまもりたいを立ち上げようと思っても、莫大な労力と地域の役員の方々の「ぜひ実現させたい」と

いう強い意欲やリーダーシップが必要になるが、みまもりたいを維持していくということであれば今後も継続できると考えている。

次に認知症についての取り組みについて、みまもりたい活動を 10 年間実施してきて、大谷久能地域は認知症の問題行動があっても排除するのではなく、できることは手伝うよという協力的な申し出や雰囲気がある。そのため、他の地区であれば介護認定を受けると参加できない S 型デイサービスや自主サロンに、民生委員やボランティアの協力のもと、継続して参加や見守りが可能となっている。大谷久能地区の民生委員やボランティアは、「地域で認知症の見守りはずっと続けてきたよ」「S 型デイサービスでも慣れているよ」と、この 10 年の取り組みがチームオレンジそのものである。昨年度からチームオレンジという形で行政からも要請があったが「行政がやっと大谷久能地区に追いついてきたんだよ」という誇らしげな声を地域から頂いている。一方で、認知症の支援ケースは多々あるが、介護保険のサービスを超えた地域資源を求める個別の地域ケア会議は、家族の方から「認知症を周囲にオープンにするのは気が引ける」「普段自治会活動をやっていないのにこういうときだけ頼るのは申し訳ない」などの意向で、今年度の開催は 0 件となっている。実際に認知症を介護している家族と、協力を申し出てくれる地域との間には温度差が存在している。その温度差をどう埋めていくかが今後の課題となっている。

最後に多職種連携の取り組みについて、自宅ですべて認知症徘徊模擬訓練、健康福祉フェア等の大きなイベントで、圏域内の専門職が集結して福祉活動を行うという土台ができている。今後もみまもりたいに専門職や行政を巻き込んで、このネットワークが錆びつかないように地域ケア会議等で活動していく予定。特にフレイル予防、認知症予防は地域の関心も高いので、S 型デイサービス、シニアクラブ、自主サロンを中心に薬剤師・PT・栄養士・歯科衛生士等の専門職を派遣して地域の介護予防を支援していく。今年度まだ開催できていない自立支援プラン型の地域ケア会議は、2 月 17 日に開催予定。明日、課題検討型地域ケア会議を予定しており、民生委員と地域のケアマネジャーの意見交換会ということで集まるので、みまもりたい活動やケアマネ支援について地域の主任ケアマネの意見を取り入れながら、来年度の包括的継続的支援計画の参考としていきたい。

今年度一年間、主任ケアマネが欠員のままだった。募集をかけても応募がなく、母体法人も離職率が高く、人員確保の目処が未だに立たないという状況である。

小嶋委員：

担い手不足の対応を今後やっていくという中で、民生委員や組長の参加を当たり前という形をとるとのことだったが、“当たり前”というのは義務という意味だろうか。

包括：

そうです。新しい組長になると、民生委員や包括からみまもりたいへの協力を依頼される。ただ、みまもりたい自体が負担をかけるものではなく、自分の組の中で気になる方がいれば民生委員や包括に相談してくださいというもので、負担感はないと思っている。これらはやめずにもう 10 年繰り返していきたいと思っている。

小嶋委員：

トラブルや、やりたくないと言った声はあるか。

包括：

特にはない。

<<大里中島地域包括支援センター>>

包括：

地域ケア会議実施状況の②ケース対応型地域ケア個別会議について、この部会終了時点で3回、今月もう1件開催する予定になった。③地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議は、元々予定していた会議を入れて3回としていたが延期になり、今月開催予定ではあるが記載上は2回としている。

今年度目標にしていた包括支援センターの周知と金融機関との連携だが、前回しずおか焼津信用金庫西脇支店と少し協力体制ができたと報告した。その後、静岡信用金庫の医療福祉介護担当者と接点ができ、今後予定している圏域会議に出席していただくこととなった。来年度に向けて、しずおか焼津信用金庫以外にも接点を持つ銀行が出てきたということで心強く感じている。新たな拠点で包括の周知を行なっていきたい。

介護支援専門員と関係機関との連携構築については、今年度主任ケアマネの会の定期開催を5回予定していた。多いと思っていたが、回を重ねるごとに親密な雰囲気ができ、参加者の楽しいという声が非常に高まり、今度5回目を開くことになった。その間に、自立支援プラン型地域ケア会議に協力してくれたPTや栄養士などの専門職の方々も主任ケアマネの会に参加するようになり、大きなネットワークが出来つつある。予想していなかったくらいの広がりがあり心強く感じている。来年度も継続し発展できるような期待を持った。

12月にDV被害者家族おしゃべり会を突発的に開催した。後ほど説明するが、制度の狭間にある課題の一つで、高齢者虐待に当たらないDVのケースがかなりあり、そのような方たちで集まって話をしてみないかということで、面白い会ができたと思っている。個別会議で良い成果があった事例ということで、8050問題を個別ケース会議で扱うことが多いが、多方面と連携ができ訪問看護・往診医・みらい・こころの医療センター・民生委員・ボランティア団体等とケースを通して繋がる事が出来る。個別ケース会議をやることによって連携力が増し、解決とははならなくても良い見守り体制が出来上がる。ただ、制度の狭間の問題で、高齢者の問題を包括が関わって解決すると、地域に残された50の方をどこの機関が主体的に支援していくか、住民を交えた見守りのチームを作っても、ボランティアの住民を主体的に支援してくれる機関が無くなってしまいうということが制度の狭間の問題として出てきている。

DVおしゃべり会について追加で説明する。3組の家族4名に集まってもらって、座談会の形式で行った。DV状況をお互いに口に出すことで、自分と子どもの関係を客観的に

振り返ることができ良かったと思う。またすでに分離した方から、今後分離を希望する方にアドバイスすることで、ピアカウンセリングの状況も生まれた。会の終了後には、事前に連絡先の交換をしていたため、一人で悩むのではなく横の繋がりができた。今後の課題として、会を継続していくとなると、どのようになるか未知のため、他の包括と一緒にやっていくのか、他の機関とやっていくのかなど、裾野を広げられたらと思う。

櫻井委員：

銀行との連携を進めているが、課題のところ由来客の顔ぶれが変わらないとある。例えば銀行に年金支給日に来る方というのはものすごく人数がいると思うが、年金を受け取りに来る方だけではなくて、8050の50の人たちも相談ができるような体制づくりも加えているのか。

包括：

今年度始めたところであるが、年金支給日の朝8時半くらいから9時半くらいまでの1時間が来客数、特に高齢者が多いという情報を得て、そこで集中的に行っているため、顔ぶれが変わらない。50という若年層を銀行でどうやって把握するかというところは、今の所思いつかない課題である。銀行員から相談をもらってその場で相談会になったケースもあり、密な関係になればそういった情報が入る状況にはある。

櫻井委員：

銀行は地域での存在意義を高めたいという考え方もあり、この活動については銀行自体も一つのきっかけになるものだったと思う。ぜひこれからも活動を進めると同時に、先細りしないような活動にしてもらいたい。

<<八幡山地域包括支援センター>>

包括：

今年度一番目玉にしていた、富士見地区での徘徊認知症高齢者の搜索模擬訓練だが、定期的にコロナが再増加してしまったため中止になった。そのため、高齢者の見守りだけではなく、認知症の知識をつけてもらうために、富士見地区内での見守りや支援体制を構築していったらどうかと考えている。もともと幼稚園児や小学生が参加し、近隣中学校の畑を借りて野菜を作る活動をしており、その中に地域の高齢者や施設に入所している方を参加したらどうかと助言をもらい、そこで高齢者とふれ合うことで多世代交流になるため、来年度から実施したいと考えている。実際に包括もその活動に参加しに行ったが、子どもがバッタなどを追いかけて回している姿を高齢者に見てもらうことは、高齢者にも子どもにもお互いに良い刺激になると思い、来年度自治会と近隣のグループホームに声をかけ、実施していきたい。

有明団地で社協と合同で開催している相談会を月に1回実施しているが、“自宅ですつと”のための講座は今年度3回実施した。健康管理や食べ物、服薬の意識が高まってきており、自治会長からも繰り返してやっていこうと意見があり、今後も続けていく予定。

フレイル予防を高齢者の居場所づくりと合わせて行えるよう調整中とあるが、S型サービスなどに包括運営法人の理学療法士に来てもらったところ非常に好評だった。体操や歩行訓練の講義が終わったあとの個別相談の時間に、今後ミニ講座と個別相談会をやってみようかという話が出た。理学療法士だけでなく栄養士や薬剤師、医療関係者にも協力してもらいやってみるのはどうかと考えている。顔を知った人が相談会をやるよと言ったら、人が来てくれると思うので、それを糸口にしてやっていきたい。今年度もコロナの影響で出来ないことが多かった。なんとか自立支援型ケア会議等を3回実施し、今月4回目を実施するが、未消化で終わってしまったような1年であった。

ボランティア育成についての質問があったが、有明応援団という団地内のボランティア団体があるが、ボランティアも高齢化しているため、富士見地区での居場所づくりでお手伝いをしてくれる方がボランティアに来てくれないかなと考えている。一箇所ですり下げるのではなく裾野を広げてボランティアを募集できたらと考えている。また、地域の方から、健康についてのアンケートをやってみたらどうかという提案があり、包括としても何が困っているのかなど、アンケートを通じて住民の声が出てくるため、自治会と連携して実施できたらと考えている。4年前に森下地区で住みやすい地区についてのアンケートを参考にし、今度は健康に特化して実施したい。

美尾委員：

コロナ禍での事業の開催だと思うが、地域ケア会議のところは気になった。ケース対応型やそれ以外の地域ケア会議の回数が少なめだと思ったが、それはコロナの影響か。

包括：

ケース対応型ケア会議は、そこまで地域を絡めて行うようなケースがないことや、地域とうまく繋げることでできなかったためだと思う。基本的に行政機関の中での対応が可能だったため、ケース対応型のケア会議までは発展しなかった。地域ネットワーク形成型は、地域の方が集まるということでコロナのこともあり中々開催ができなかった。

小嶋委員：

“自宅ですっと”をテーマに挙げているので、健康アンケートで、自宅に居られない課題を抽出すべきと感じている。その中で医療と看護の課題が大きいと思うので、その課題を抽出して医療看護等の協力体制を構築していくことが地域住民のためにも必要になると思っている。ぜひこの健康アンケートを実行していただければと思う。

包括：

総合病院の看護師に高血圧等の話をしてもらおうと住民の反応が良かったため、住民の健康に関する意識は高くなってきたと思う。

櫻井委員：

包括からなにかあるか。

包括：

市や国からのアンケートで同じような内容のものが多く、統合してもらえないかと常々

思っている。

#### <<小鹿豊田地域包括支援センター>>

包括：

今年度、地域包括支援センターの周知活動として、民児協等で情報提供している。その際に、定期的に行行政からメールでいただく“見守り新鮮情報”をプリントアウトして配布し、高齢者へ情報を伝えていただくようにしている。また、年金支給日に清水銀行と連携して周知活動を行う予定でいたが、今年度実施できなかつたため、来年度実施できるよう調整していきたい。

介護予防の発信では、コロナ禍で継続されている S 型デイサービスや居場所活動の場でもっと発信できればよかったが、実際には 12 月 6 日に S 型デイサービスで基本チェックリストを利用して介護予防・フレイル予防の周知活動を行ったところが今年度の活動になる。かけこまちの月間スケジュールの配布は継続的にできたが、中々小鹿から七間町まで出向くことが難しいため、出張かけこまちについて地域包括ケア推進本部と相談している。来年度に向けて、1 カ所の S 型デイサービスから活動依頼があったため、7 月あたりに実施できるよう調整していく。

意見・提言シートの中で、高齢者の健康意識向上について、自分ではまだまだ大丈夫だと思っている高齢者に、自らの気付きを持つ機会が必要なのではないかというコメントをいただいた。来年度、高齢者が集まる場所で意識付けができるような活動を検討したい。

地域包括ケアシステムの強化では、今年度、主任ケアマネージャーの連絡会を開催した。その中で主任ケアマネージャーから貴重な意見や課題を伺うことができた。中でも、民生委員との連携を希望するものや、ヤングケアラーの実情についての課題も挙がったので、今後は連絡会で少しずつ課題を整理していきたい。自宅ですべてミーティングについて、3 月 9 日に人生会議の入門編として地域住民と医療・介護の専門職と一緒に考える会議を予定している。民生委員に提案した際に、なんとなくこの言葉を聞いたことがあると話があり、専門職からはやっぱりやらなければいけないねとの声も上がった。今回はあくまでも入門編ということで、医療や介護が必要なきにどういうふうにしたらいいかということを考える時間にしてもらいたい。支援センターみらいと協働で、ヘルパー事業所向けに精神疾患のある高齢者とその家族への対応をテーマに勉強会を開始し、対応での日頃の疲弊感軽減につなげることができた。同じ仕事をしているものの、ヘルパー同士横のつながりがなかなか無いようだが、困りごとや苦慮していることは同じということで、学びと情報交換の機会ができた。来年度も別の支援センターとの連携を図っていきたい。

最後に生活支援コーディネーターとの連携だが、一昨年の東海道シグマから今年度は社協に代わり、当包括の担当者も 10 月に代わったばかりだったため、地域の実情について情報交換をした。当包括は 3 つの地区に別れており、西豊田で支え合い懇談会が実施され、東豊田では支え合い会議の中で移送支援の話が出た。それらを社会資源としてケアマネジ

ヤーにも伝えた。東源台地区では大型マンションでの孤独死があり、見守り体制構築するために住民や社協との意見交換も行っている。その中で、東源台の高い位置に住んでいる住民は、買い物に困っているという話も出たため、移動販売車の提案をしたところ、社協と住民とが相談して移動販売車の運行が決まった。地域とのつながりが今年度もできたことを実感し、安心している。

望月委員：

支援センターみらいや精神障害の勉強会は大変良かったと思っている。ヘルパーは普段から、高齢者への対応と障害者への対応が違って困るとの声を聞いているため、ヘルパー向けの勉強会は大変良かったと思う。一つの包括だけではなく、障害と高齢の連携は市の問題でもあり、全体的な問題でもあるため、色々なところで勉強会や研修が開かれていると思うが、精神福祉士協会としても協力していきたいので、ぜひ声を掛けてもらいたい。継続的に来年度も色々なところでこうした取り組みができていければいいと思うので、よろしくお願ひしたい。

前坂委員：

かけこまちに相談するケースが出てきているということだが、かけこまちに相談するケースとして、医療につながるのが難しいのか、行政の支援が必要なのか、等、どういった具体例で相談しているのか教えてもらいたい。

包括：

かけこまちについて包括から住民に情報提供しているが、そこから先、実際に相談したかは包括に連絡は入ってきていない。

紅林委員：

健康についての意識付けはすごく大切だと思う。食事は誰もが毎日するもので、意識しながら食事をするというのがとても大事なこと。今はお年寄りにもできる簡単な料理の仕方や、スーパーやコンビニの総菜もこうやって組み合わせるといいよといった話など、栄養士も活動しているので機会があればお声かけをお願ひしたい。

<<大里高松地域包括支援センター>>

包括：

まず地域ケア会議の実施状況だが、自立支援プラン型地域ケア個別会議は現時点で3回である。来週2月15日にもう一回開催し、年間で4回、各回3人のケアマネジャーで計12ケースを自立支援プラン型でやっている。ケース対応型地域ケア個別会議は現時点で3回、その他の会議や事例検討など数に載っていないもので12件ある。その中にはケアマネジャーからの相談や入所している施設からの相談で会議を行い、帰宅するとネグレクトや虐待になりそうな方を未然に防止するといった成果が出ている。コロナの関係で大きめになる地域ネットワーク形成に関わる会議は0回になっている。

主任介護支援専門員連絡会を通して圏域の介護支援専門員の横のつながりと資質向上を

目指すというところについて、今年度、一番直近では1月に主任介護支援専門員連絡会を開催した。我が家と地域の防災対策・事業継続計画における災害対応をテーマに、二部構成とし、区役所の地域総務課の職員の出前講座と、駿河区社会福祉協議会の方から今回の防災ボランティアセンターの運営状況について講義をしてもらった。身近な問題として、アンケート結果からも好評であった。どういったことを主任ケアマネジャーがやりたいかを事前の打ち合わせ等行う事で、横の繋がりができている。大里中島包括がうまく行っているとのことなので、色々教えてもらいながら、来年度は主任ケアマネジャー同士で自主的にやっていけるようバックアップする形になっていくとよい。

認知症になっても住み慣れた地域で暮らすことができるよう啓発活動を行うというところは、南部学区でチームオレンジが発足したため、月2回の社協の会議に包括も参加して、継続的に認知症に関してのPRをしたり、チームオレンジの活動報告をいただいたりしており、来年度も継続して関わっていきたい。出張かけこまち七間町を開催し、参加者の集客が難しいかとも思っていたが、蓋を開けてみたら申し込みがケアマネジャー以外にも薬剤師やデイサービス事業所やヘルパー、地域住民や元民生委員の方などのいろいろな方が参加してくれ、そこで認知症の話とかけこまち七間町の話をしていただいたので、成果があったと思っている。前回報告したが、高校や中田まつりなどでも認知症についてのPRができたので、色々な世代にPRができた。認知症予防についての地域からの相談という、火の不始末が心配だとか、色々なことが心配だと地域住民の方が言ってきてくださるが、マイナスに捉えると心配になるが、プラスに捉えるとそれだけ気にしてくれていると捉えればいいのかと思い、その方々にお声がけをして反対に少し見守りをしてもらっているようなことができている。負担にならない範囲で、何かあったらすぐに教えていただき、包括が対応していくことにしている。

ワンストップサービスの相談機関として気軽に相談できる体制を作るについては、ウエルシアのウエルカフェで何でも相談会というのを今年度は5回行った。相談会の集客はそれほどなかったが、そこでチラシを見たことで相談に繋がっている。もともとコロナになる前には調剤薬局で2ヶ月に1回相談会をやっており、そのときに高齢者だけでなく親子で来ている方など、色々な方にチラシを配布していたため、色々な世代に包括支援センターの周知をし、相談しやすいように活動している。

多職種連携で医療と介護と地域住民の連携を図るについて、2月に介護と障害の分野に関する研修会を開催する予定。県の地域リハビリテーション強化事業を利用し、地域住民のサロンで理学療法士と一緒に講座を開催した。2部構成で包括職員が消費者被害に関する劇を行い、2部で専門職の方に話をしてもらっている。他の地区でも劇を行ったところ、参加者の高齢者の方が、コロナになる前は劇団に所属していたから今度やるんだったら声を掛けてほしい、と社会資源を知る機会にもなった。

大きな地域ケア会議はできなかったが、社協でやっている地域福祉懇談会や地域づくり会議に多職種で参加できたので、次年度以降もそういったところで地域住民との連携を図



ることをしていきたい。

中村委員：

出張かけこまちについて、実施時間、どのような職種の方々が来たのか、参加者の意見など具体的なことをもう少し教えていただきたい。

包括：

開催はウィークデーの午後 13 時半からの部と 15 時からの部で行なった。不特定多数にチラシ配布し、電話を受けるという形にしたため、どのくらいの人に来てくれるのかわからなかったが、1 部と 2 部と合わせて 30 人くらいの方が参加した。参加者はデイサービス、ヘルパー、ケアマネジャー、元民生委員、地区の役員、でん伝体操の自主グループの高齢者などが参加した。実施内容はかけこまち七間町の方が講師となり、タブレットで認知症度合いを測る体験をした。認知症についての話もしてくださったので、講座全体をかけこまち七間町の方をお願いしたということになる。ケアマネジャーからは、こういうところがあるなら今度利用者に紹介できるね、というお話や、一般の方からは人を誘って今度は七間町の方に行ってみたい、といったご意見をいただいた。

<<長田地域包括支援センター>>

包括：

地域ケア会議の実施状況について、自立支援プラン型地域ケア個別会議は現状 3 回で、来週も実施予定のため合計で 4 回実施となる。ケース対応型地域ケア個別会議は 3 回で、独居の精神障害者ケース、親子で困難を抱えているケース、女性が認知症夫婦宅に出入りし、経済的なトラブルを抱えるケースについて実施した。地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議は 5 回実施し、6 機関との会議や、ケアマネジャーとの勉強会兼その後の地域の状況について意見交換を行ったものとなっている。

1 つ目はコロナで外出先がなくなったこの 3 年間で、今まで元気に暮らしてきた方の筋力低下や認知症が進行してしまう状況があったため、介護予防や生きがい探しといった視点、また国の方針でもある循環型社会の実現、支える人も支えられる人になるし、支えられる人も支える人になるというところを目指し、“good at プロジェクト”と銘打って介護予防等に取り組んでいる。関係機関との調整の中で実施をしているが、11 月、12 月に生涯学習センターで関係機関が行っている講座とタイアップする形で、そこに来ていた方に自分の得意なことや好きなこと、やっていることを書いた名刺を作ってもらい、グループになって名刺交換をしてもらった。参加者は自分の好きなことを話す機会にもなり、笑顔になって、非常に好評だった。実施にあたり、6 機関会議でこんなことを考えているよということや、うちが協力できるよといった、会議での情報交換を有効活用した。今後もまたやってみたいとの声があったため、来年度も実施予定でいる。今は、参加者は参加するというスタイルだが、今後は何らかの形で主体的に動いていただける仕組みを考えていけたらと考えている。

2つ目は権利擁護の視点から、認知症の正しい知識を持っていただけるといいなということで、用宗老人福祉センターの協力のもと、認知症予防講座を年2回開催した。今後は認知症サポーター養成講座やチームオレンジの動きに繋がりたいと考えており、来年度以降の課題になっている。

3つ目は総合相談事業の対応力向上のため、毎朝のミーティングや事例検討は継続して行いつつ、障害等複数の課題を抱えた家族への支援や対応力向上、ケアマネジャーの後方支援、デイサービスやヘルパー等のサービス事業所への勉強会を実施した。障害の関係機関の協力を得て、今年度も支える人同士が支えあう形で勉強会を開催した。この勉強会は4回目になり、少しずつ顔が見える関係性が出来、今までは包括支援センターが間に入って障害の相談窓口につながっていたが、今では直接ケアマネジャーが障害窓口で電話で相談し、助かったとの声が聞かれるようになった。少しずつだが成果がでていていると感じている。グレーゾーンへの支援は課題として残っており、今月勉強会を開催する予定になっている。ケアマネジャーへの後方支援として、圏域内18か所の居宅介護支援事業所があり、年2回ずつ主任ケアマネジャーを中心に訪問して話を聞くようにしている。そうすると、わざわざ電話して包括支援センターに聞くまでもないようなことだけど、実はこんなことを感じていたといった意見を聞くことができるため、地道だが有効な手段だと思っている。こうした包括の事業を支えている地域との関係性を大事にしており、地域支えあいのボランティアを募っている地区で、ボランティアやサロン参加者に向けて、包括支援センターがその場に行って介護保険や介護予防の話をしている。1つの地区ではコロナワクチンの予約支援を継続しており、毎回500~600人の方が来るが、そこの手伝いをする中で地域の方とざっくばらんなお話をする場とし、地域と顔が見える関係性を維持するように努めている。

権利擁護では虐待の勉強会を今年度開催予定であったが、ケアマネジャーの勉強会と重なってしまったため、来年度以降に見送った。ホームページの閲覧を推進する方法については、包括職員の名刺にQRコードを印字し、名刺交換の際にQRコードを読み込んでください、ホームページを見てくださいと伝えるよう工夫している。またいつも同じ情報だとみてもらえないため、年に何度かホームページを更新するようにしている。

稲垣委員：

ホームページがとてもよくできている。これからもよりよくして行ってほしい。

小嶋委員：

good at 体験会にはどれくらいの人数が集まったのか。

包括：

1回目の生涯学習センターのときは20名ほど、2回目の老人福祉センターのときは認知症講座を開催し、その参加者に引き続き参加してもらったため、10名ほどだった。

小嶋委員：

周知活動は具体的にどうやったのか。

包括：

S型デイサービスの中のレク活動でチラシを地域の掲示板に張り出したり、生涯学習センターがお知らせを出したり、包括への来所者に直接案内をしたりした。

<<丸子地域包括支援センター>>

包括：

自立支援プラン型地域ケア個別会議は現状では3回だが、年度内は4回開催する予定。ケース対応型地域ケア個別会議、地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議は5回開催した。

1つ目の相談対応力向上を目指すこととして、毎朝のミーティングや月1回の4包括との合同ミーティングでは、相談援助技術の向上のための各種制度の知識等の共有等を行っている。また支援困難事例については、担当ケアマネジャーと一緒に事例検討を行ったり、ケアマネジャーと同行したり、担当者会議等と一緒に参加したりして、情報共有を行う中で一緒に考える機会を持っている。長田包括からも話があったが、圏域や近隣の介護支援専門員とともに勉強会を行う機会を持っており、11月15日には障害支援機関や介護サービス支援事業所、薬局と一緒に勉強会を開催した。2月21日には圏域や近隣のケアマネジャーに向けて毎年実施している業務のグリーゼンについての勉強会を開催する予定になっている。包括だけでなく、圏域や近隣の介護支援専門員とともに学び、知識の向上ができる機会を持っている。そのほか包括内でも研修へ参加した場合には、事例に関わった際に出た情報を互いに共有することで、職員全体のスキルアップに繋がるよう取り組んでいる。また地域のケアマネジャーと一緒に学ぶ機会を作ることで、顔が見える関係、相談しやすい関係を作りながら互いのスキルアップにもつながるよう取り組んでいる。地域の高齢者を一緒に支援する仲間として、今後も継続した取り組みを行っていきたいと考えている。

2つ目の高齢者の権利を守る取り組みでは、10月18日に成年後見制度や日常生活自立支援事業について成年後見支援センターの方を講師に迎え、圏域の介護サービス事業所、薬局、委託先の居宅介護支援事業所に声をかけて勉強会を実施した。高齢者を支援する者同士が、共通の制度理解のもと支援が行えるように実施し、理解を深めることができた。地域の高齢者の権利を守る視点から、ここ数年多くの関係機関へ声をかけ実施しており、今年度は79か所の事業所等へ案内を出し参加を募った。今後もネットワークづくりや知識向上のためにも継続して実施していきたい。長田包括と虐待対応の研修会も企画検討していたが、同じテーマではほかの研修会と同時期になってしまったため、次年度以降に実施することになった。包括支援センターから不定期に発行している広報誌にも、成年後見制度についての情報を載せている。圏域のS型デイサービスの利用者やスタッフ、民児協や居宅介護支援事業所などに配布している。その後は広報誌をホームページにも掲載し、多くの方に見ていただける機会を持っている。勉強会や広報誌等で周知しているが、今後も

高齢者の権利を守る取り組みとして継続していきたい。

3 つ目は高齢者自身が自ら介護予防に取り組めるよう支援することとして、丸子包括は理学療法士が配置されているため、他の 3 職種とともに S 型デイサービスやシニアクラブで介護予防の運動や講座等の啓蒙活動を行っている。広報誌については配布資料として提示しているが、年に 4 回ほど作成しており、自宅でもできる運動やコラムを掲載して発行している。ファイブコグ（脳の健康度チェック）を 5 月と 12 月に開催した。1 回の開催で包括職員が対応できる人数での実施となるため、1 回あたり 20 名を定員に開催した。2 日間で 1 回のコースとして実施し、自身の脳の状態や得意不得意を知って確認し、介護予防の運動を実施した。参加者からの継続した利用希望があったため、今後も介護予防のきっかけとなってもらえるよう、実施したいと考えている。

4 つ目の認知症になっても住みやすい地域づくりとして、長田西地区では 3 年前に徘徊認知症高齢者の搜索模擬訓練を実施した。その際も多くの方が参加しとても好評だった。その際このような取り組みを継続したいとの多くのご意見があったが、その後コロナの流行となってしまったため、提案のみとなっていた。今年度は地域のボランティア団体や民児協、地区社協へチームオレンジの説明をしたところ、実施希望があり、各団体が参加しやすい形を検討し、長田西民児協では 8 月にサポーター養成講座、10 月にステップアップ研修を実施し、長田西地区社協を中心に民児協やボランティア団体、自治会等に地域から声をかけていただき、11 月 29 日にサポーター養成講座とステップアップ研修を実施した。当日天候が悪く、参加者が減少してしまったが、61 名の方が参加した。8 月、10 月開催時の参加者と合わせて合計 85 名の方が参加したチームオレンジが行われた。チームオレンジの研修後アンケートでは、大変好評な意見が多くあり、次年度以降も継続したいとの意見も多くあった。アンケート結果についても各団体に研修終了後に説明した。また地域のかたの学びとして、認知症になっても住みやすいまちづくりのためにも継続した取り組みができるように案内をした。

美尾委員：

コロナ禍の中、地域ケア会議をこれだけの回数を開催しており、積極的に地域の課題に取り組んでいると感じた。ほかの包括でも話が出たが、さまざまな制度のはざまにあるケースへの対応に苦労していることと思う。それら窓口として包括を頼ってしまうところもあると思うが、それらケースへは行政も交えながら積極的に対応をお願いしたい。

<<事務局からの報告>>

事務局から第 2 回駿河区地域包括支援センター運営部会で実施したアンケートの結果説明を実施。

<<報告書（案）の審議>>

小嶋委員：

医療や看護といった専門職との連携についての取り組みを増やしてはどうか。医師会歯科医師会含め、地域へ出ていく取り組みとしていろいろなものを受けているため、そういうところに地域の方や包括の方含め、一緒に出てきて取り組んでいただけたらより一層いいなと思います。

中村委員：

いろいろな包括で得意分野ややり方の工夫があり、それがほかの包括の刺激になり、いい形になっているのかなと思った。担い手不足やボランティアの存続問題は共通してあったと思うので、駿河区全体でも繋がりができたらいいのかなと思った。

稲垣委員：

専門職との連携は賛成。会議の中で具体的な取り組みの話も多くあり、地域ごとの特色が出ているため面白いと思う。ここ数年はコロナの影響があり、活動の制限もあったと思うが、来年度以降は通常の活動ができるようになってきていると思うため、期待している。

前坂委員：

来年度以降の取り組みとして専門職や行政との連携強化をしていかなければならない。静岡市で特に言えることだが、我々専門職や行政で仕組みは作っているが、大変受け身であるため、利用しにくい、相談しにくい現状がある。来年度以降、各包括が相談しやすい、利用しやすいことを、個別に意見を挙げたり密な情報共有が出来たらと思っている。

望月委員：

各機関との連携強化が大切だと思う。各包括の課題の中でも 8050 問題やヤングケアラー、虐待、DV など、様々な課題が出てきており、高齢分野だけの問題ではない。いろいろなところとつながっていかないと解決できない問題であると思う。各包括が工夫して、勉強会等やっているが、それを単発ではなく継続することが大切だと思うので、先を見据えた展開を期待している。

美尾委員：

連携強化の取り組みを来年度も引き続き実施していただきたい。

紅林委員：

非常に各地域で特徴があり、同じ駿河区でもこんなに違うことを学んだ。配置人数の少ない包括もあり、大変頑張ってくれていると感じる。各職種の繋がり、顔が見える関係を大切にし、それぞれいいところを PR しながら互いに興味関心を持ってもらえる工夫を期待している。

櫻井委員：

駿河区の包括の皆さんがいろいろなところと関係性を持っていて、それぞれのセンターでの垣根を超えた繋がりができているので、それを少しずつ広げていく機会があるとよい。事業所の違いはあるが、もっとお互いが連携しあって意見交換しあっていけるとよいと思う。

櫻井委員：

令和4年度 駿河区地域包括支援センター運営部会報告（案）を、静岡市包括支援センター運営部会に駿河区の意見として提出してよいでしょうか。

各委員：

全員一致で承認。